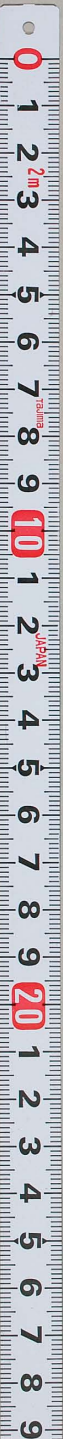
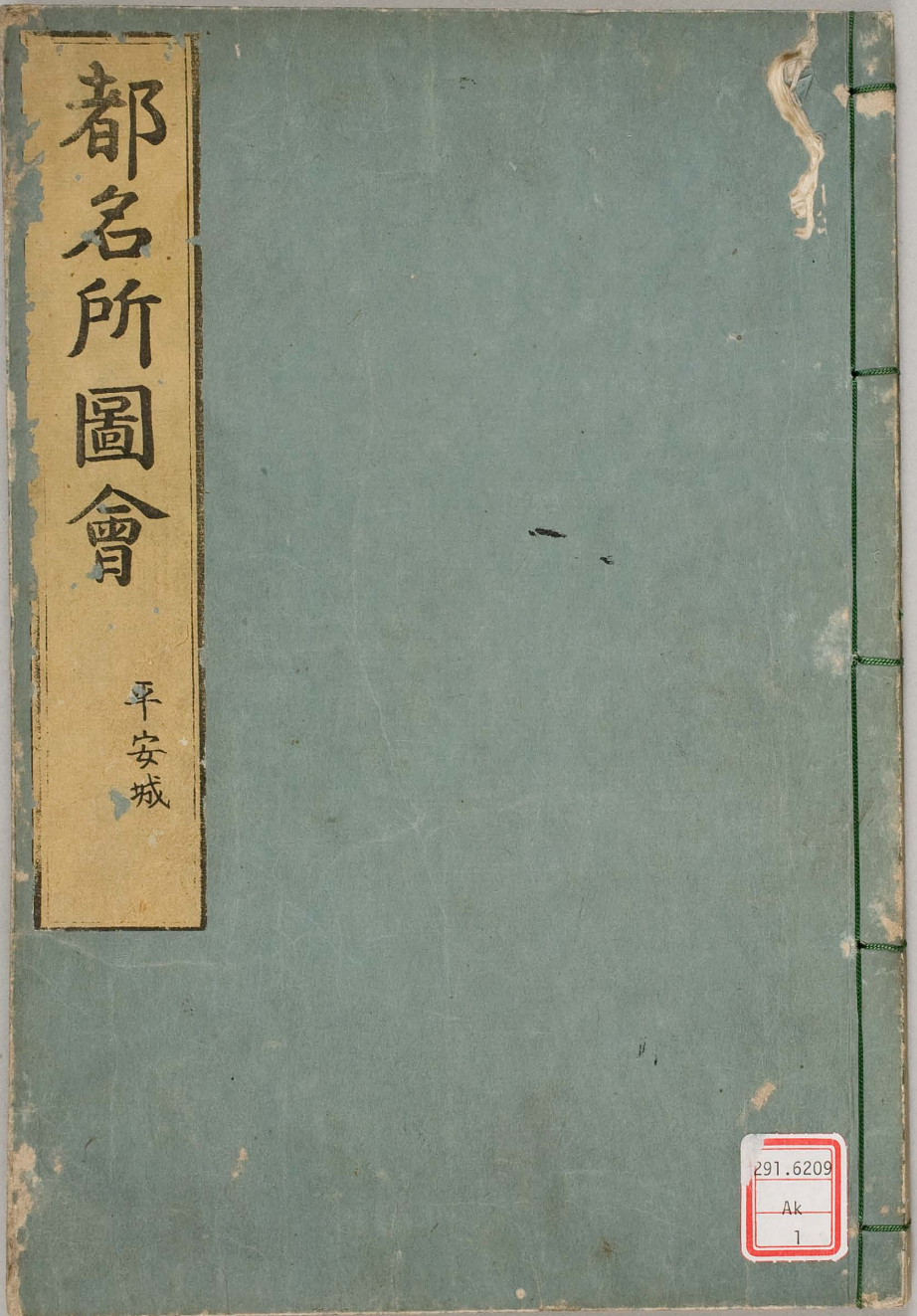
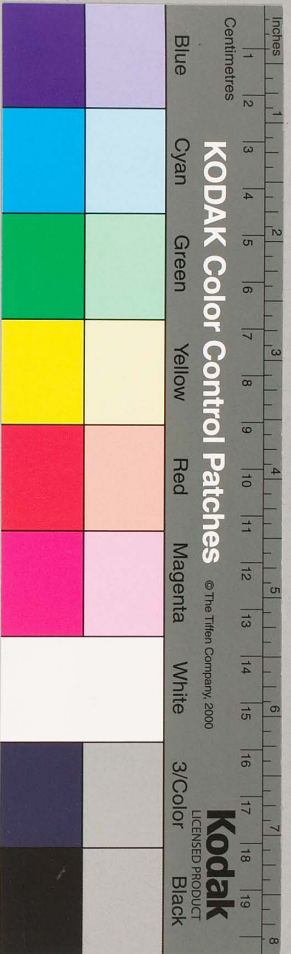


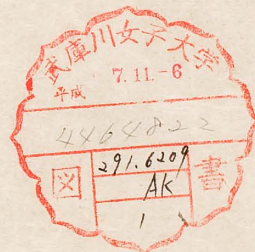
0345



都名所圖會

平安城

291.6209
Ak
1



いづれか、いづれか、由

が、あつたの、ゆゑに、あつた、ゆゑに、

山川、寺の、いづれ、ゆゑに、

まゝ、いづれ、ゆゑに、あつた、ゆゑに、

いづれ、ゆゑに、あつた、ゆゑに、

とるのいふこと
賦したる系かよ一賦
ろく志くせ地さ
遠くく世後
ふも民

か守石上物
ふ付くわ
ふりたや
強じろ
ふりたや

のこしちのしんしん
此國のしんしん
乃業のしんしん
直のしんしん
流久のしんしん
神風のしんしん

安永九庚子年仲秋
栖霞殿
五條式部大輔管原為俊卿

凡例

- 一 此編の巻首に平安城とあり其四方に帝初鎮後の四神小宮とあり是神社の芳境佛圍に佳邑山川の美觀を今時の風景にありのまに模寫し舊本花洛細見圖を増益して時々其遺漏を巡歴し按社州府たりとも一字と遺れ勿重し兼坐して古蹟の勝地と見ざるは肝要とす
- 一 文談の宮古案時記山城名所紀行と稱し且舊記亦委を其大意を採り又脱漏あり微細に搜て求てまね紙撰書するを兼紙專とす
- 一 圖中に境地廣大なる所は多く細画之狭少なる神祠小堂を又亦は故み兼毎に人物あり形容を以て微少なる人物は其地廣大とあるは形容微少ありは境地狭少なり殊に加茂社と野宮との境地を知るとるは便し

一 圖中の間より人物は画あり四時の住観を賞して極楽の地と
 知んたためし洛東の花見宇治堂狩等と
 一 圖中れ名所又連綿の地あり圍乃上に系系と云ふれと
 繫く八幡神宮寺より宿院の法ありい宇治乃橋と
 惠心院興隆寺かとの連綿の地と
 一 比叡山の圖あり東塔坂本より近江之志くれも西塔より
 連綿の地ありて隆くとも徳の山崎若観寺も標明乃界
 ありともとと縁たれはまは図と

都名所圖會卷之一目錄

平安城首

内裏圖	上御靈	中川	相國寺
京極八幡	幸神社	糸井	妙覺寺
妙蓮寺	妙顯寺	本法寺	千宗佐家
大應寺	報恩寺	堀川	一条成橋
小野小町草紙洗水	安倍清明社	水天天神	興聖寺
瑞光院	本隆寺	桜葉宮	石像寺
欽喜寺	石神社	聚樂亭旧地	般舟院
西陣織物袴	淨福寺	大超寺	阿弥陀寺
十念寺	本滿寺	廬山寺	淨華院
下御靈	革堂	清荒神	高田本誓寺
妙滿寺	本經寺	頂妙寺	源三位賴政旧跡

高松神明社
 西行水
 御所八幡
 天性寺
 久田地藏
 生例
 三条橋
 檀王
 瑞泉寺
 先本町
 六角堂
 池坊
 錦天神
 千鳥池
 園福寺
 蛸薬師
 虎茶師
 長金寺
 腰帯地藏
 泉式部塔
 軒端梅
 誓願寺
 未用紅
 存墓石
 柳の水
 空也堂
 茶釜賣
 神泉苑

畫工陳糶
 畫地
 騰心翁
 不計勞
 跬
 步帝畿
 在目中

和克明





内裏之圖



上御靈社と平安城鞍馬口通(南)ありの神早良親王 伊豫親王 藤原真人 文徳太子 橘 足勢 藤原藤原 吉備大臣 大甕

等の八所御靈あり朱雀院の御宇天慶二年小鎮光奉ふり(北)北山出ま
り故出雲治の御靈あり(例)八月十八日中御靈の御靈通(盧)の南あり
當社の御靈所あり

○早良親王の光仁帝を身二の皇子なり延暦元年九月朝廷に傾きんと
議をめぐりし其間ありて淡路國に遷一同(高)高瀬に幸り氣絶

て覺下の入(聖)聖出若ぬれ(同)十九年七月小崇道天皇の追號(宣)宣下
のあり紀伊郡藤森神社 同神あり ○伊豫親王を崇道天皇の御子なり平城帝の御時

逆心あり(川)原寺にありて飲食(通)通せ(後)後あり ○藤原夫人(崇)崇道天皇の
后吉子(號)號と伊豫親王の御母なり ○文屋宮田九(承)承和十年十二月(謀)謀叛(企)企ふ

て伊豆國に配流(奉)奉あり ○橘(速)速勢(石)石中(辨)辨位(下)下入居の子(後)後深帝の御時の
御書あり(奉)奉朝(二)孝の(真)真二(人)人なり(仁)仁明帝(北)北河守(承)承和元年七月(小)小深(坂)坂の事あり

と(小)小伊豆國(流)流罪せ(九)九月(小)小死(と)とあり ○橘(廣)廣嗣(と)と(原)原(宇)宇合の(才)才(子)子
大宰府(小)小井の(と)と(叛)叛(逆)逆あり(大)大群(大)大(宣)宣(有)有(後)後(衆)衆(馳)馳(向)向(て)て(飛)飛(多)多(廣)廣(嗣)嗣(敗)敗(北)

て(自)自(刃)刃(て)て(首)首(落)落(と)と(具)具(頸)頸(勿)勿(天)天(昇)昇(り)り(空)空(中)中(に)に(赤)赤(鏡)鏡(と)と(あ)あ(る)る(人)人(と)と(く

く(即)即(死)死(と)と(豊)豊(後)後(國)國(鏡)鏡(宮)宮(肥)肥(前)前(板)板(權)權(明)明(神)神(等)等(け)け(靈)靈(夜)夜(は)は(例)例(と)と) ○(太)太(備)備(大

臣)臣(石)石(大)大(正)正(二)二(位)位(を)を(奉)奉(朝)朝(と)と(雙)雙(の)の(才)才(人)人(之)之(正)正(天)天皇(に)に(遺)遺(唐)唐(使)使(を)を(唐)唐(に)に(遣)遣(さ)さ(う)う(て)て(野)野(馬)馬(臺

の(文)文(取)取(讀)讀(ん)ん(と)と(る)る(文)文(議)議(曉)曉(し)し(と)と(ゆ)ゆ(ふ)ふ(朝)朝(初)初(瀬)瀬(の)の(初)初(世)世(音)音(心)心(中)中(小)小(念)念(を)を

且(時)時(跡)跡(殊)殊(を)を(り)り(と)と(系)系(引)引(て)て(教)教(を)を(容)容(易)易(と)と(あ)あ(り)り(と)と(や)や(と)と(平)平(五)五(年)年(小)小(深)深(朝)朝(光

仁)仁(帝)帝(實)實(龜)龜(六)六(年)年(覺)覺(下)下(あり)り(年)年(八)八(十)十(二)二(歲)歲) ○(大)大(甞)甞(神)神(北)北(野)野(大)大(滿)滿(天)天(神)神(の)の

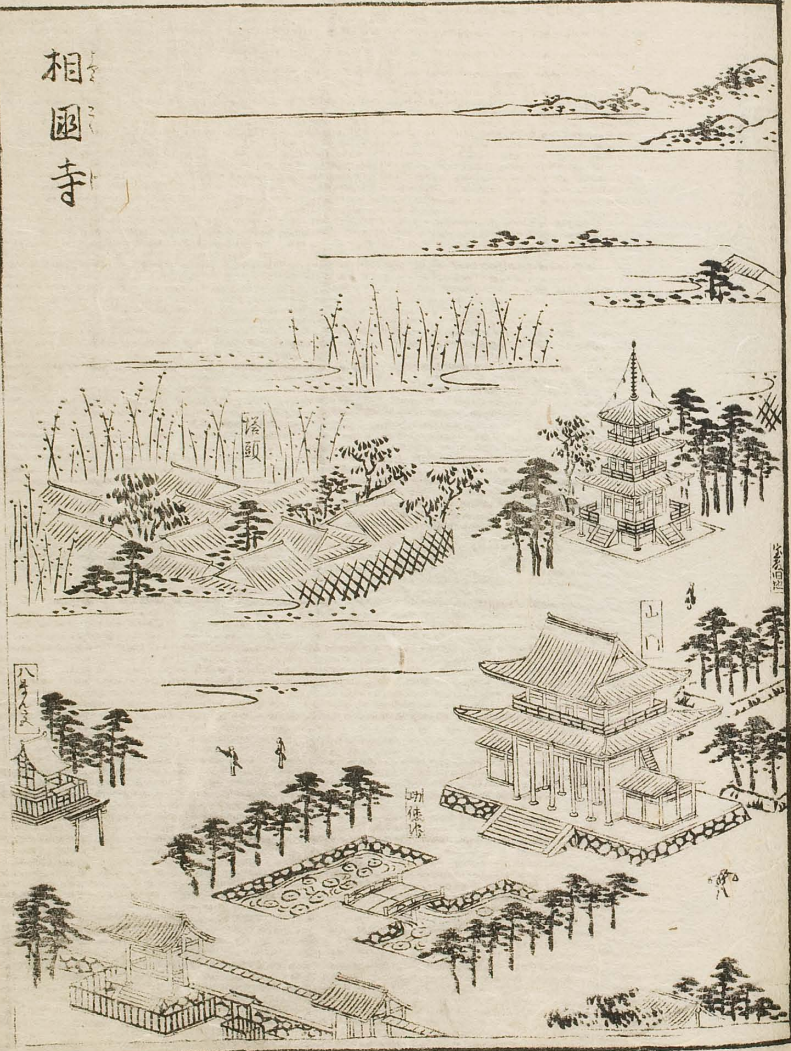
觀)觀(音)音(堂)堂(に)に(奉)奉(尊)尊(の)の(聖)聖(德)德(を)を(子)子(の)の(化)化(し)し(て)て(聖)聖(觀)觀(世)世(音)音(足)足(列)列(出)出(ま)ま(す)す(れ)れ(奉)奉(さ)さ(る)る(と)と) (中)中(川)川(と)と(上)上(河)河(垂)垂(れ)れ(ま)ま(の)の(流)流(と)と(鴨)鴨(川)川(と)と(南)南(川)川(と)と(西)西(川)川(と)と(具)具(中)中(小)小(あり)り(ゆ)ゆ(冬)冬(に

に)に(名)名(系)系(極)極(川)川(も)も(號)號(今)今(れ)れ(系)系(極)極(通)通(寺)寺(院)院(の)の(筋)筋(小)小(川)川(あり)り(藻)藻(埜)埜(小)小(川)川(に)に(系)系(極

川)川(なり)り(足)足(濟)濟(堂)堂(殿)殿(は)は(深)深(寺)寺(の)の(間)間(と)と(深)深(く)く(を)を(深)深(氏)氏(卷)卷(の)の(潛)潛(ん)ん(て)て(中)中(川)川(は)は(宮

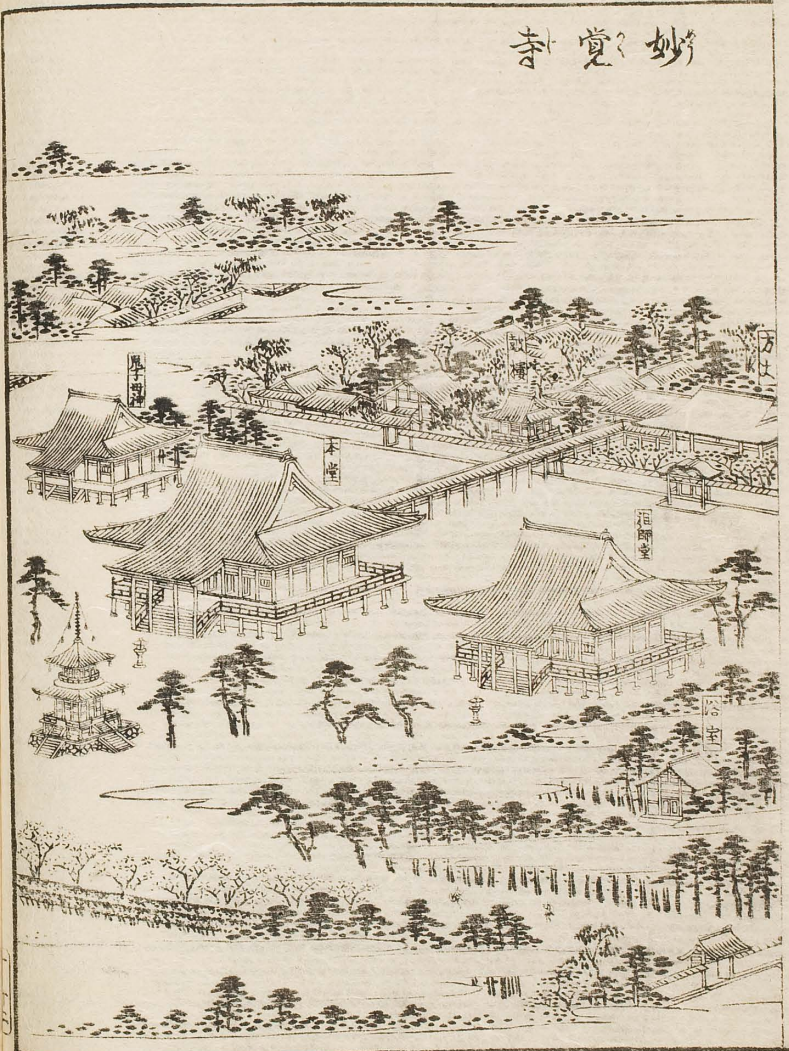
ふ)ふ(ゆ)ゆ(と)と(空)空(塚)塚(く)く(具)具(と)と(か)か(の)の(ま)ま(り)り) (け)け(け)け(ら)ら(ら)ら(ら)ら(水)水(と)と(せ)せ(た)た(ん)ん(本)本(屋)屋(と)と(一)一(た)た(中)中(川)川(れ)れ(る)る) 光俊
御後(と)と(ら)ら(の)の(中)中(川)川(の)の(入)入(ぬ)ぬ(と)と(後)後(を)を(せ)せ(ら)ら(る)る(あ)あ(い)い(せ)せ(ら)ら(ん)ん) 空真法師

相國寺





妙覺寺

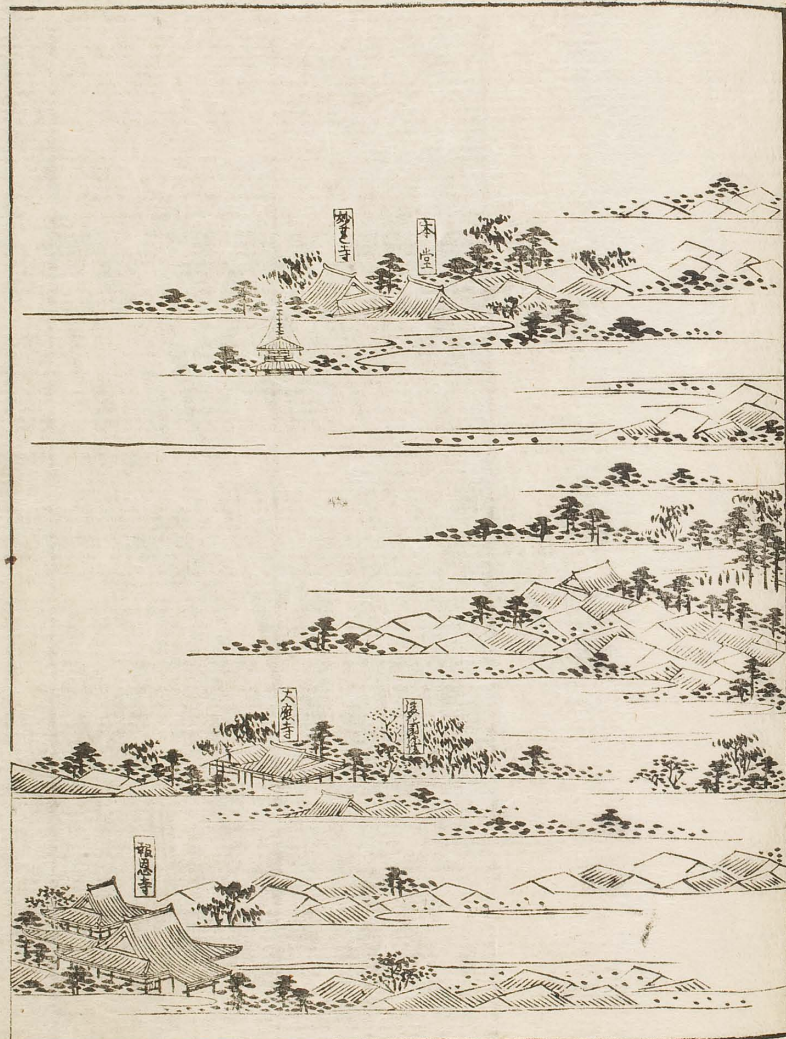


萬年山相國承天禪寺入出川の北あり五丁辰二すて開基を慈恩國師二世之
妙範後小松院江半明德三年足利三代の將軍義満公建立之り佛殿佛から釋迦
佛と安坐一迦葉阿難と左右あり連立たえの像と殿壇永安及祖師堂小を慈恩國師
の像あり後水尾院江再建すて同帝の神牌永安及之重塔を大日如來の
本尊とされ後の尾院江再建すて山門圓通閣のハ沐功徳徳と號一塔頭
は之界橋とるへを法けら庫重慶の債みハ昆沙門と安ん
普光院江竹林小の門定家銀紅基あり
法然水ハ塔頭松鷗軒あり法然上人あり信の社宮寺あり百萬遍の田也あり
系極ハ幡宮上添盡ハ西あり諸社根元記白古ハ三條京極小あり應仁の後山北
と盛裏記曰系極寺と自古の末社ありと今直言の僧ハ小あり
出雲路神と系極江西今出川の小あり多所後由後命ありて道祖社あり今
章神とハ旧地と系極江東へ
縣井戸ハ洛陽江名所へ古一條れ水東側院の西あり
縣官傳小あり一

後編 郡人きともおらめん 姓取くわくはるもの山崎乃くさ 楠公平女

具足山妙覺寺ハ新町頭あり法教宗とて開基ハ日實上人あり樓門の金剛力六
弘法大師レ化之祖師堂ハ日蓮日朗日像三師の像と安坐及
恰好比類般諸堂花方塔あり日蓮自筆の法教經と収む紫印金乃曼
荼羅角龍龍曼荼羅と兵二日蓮の塔あり當寺レ什寶あり山寺ハ一ハ
あり今妙覺寺助ハ正末中あり吉公命ありて地也あり
又當寺ハ画二符野古法眼元信具外符野家教代の墓あり
卯本山妙蓮寺と寺内通小川の西あり右向ふと開基ハ日像上人あり古ハ
西側五條小あり柳庭仲具とふとの日像と歸依と宅妙教あり柳
寺と稱ん其後大宮通四條江南小川ハ又元極玄禪寺通大宮ハ建立之止廿四年
小ハ地小移と當寺の什寶ハ祈雨の本尊とて日蓮上人ハ自筆法ハ日實五條
羅河江後光嚴院ハ字三下大昌寺レ法教ハ以て桂川の小あり後雨
れ法と修せむ念靈靈あり大雨較日乃故に日蓮上人ハ善善之號と號と號と





本法寺
 大應寺
 報恩寺
 妙蓮寺
 千宗佐宅



具足山妙顯寺を小川の北にあり法興寺よりて開基（日像上人）洛陽よりて

日蓮宗取初のまに後醍醐天皇に勅願所とん

初は西院二条に南ありて正年中に地蔵の寺

立像に釋迦佛の長子なりて黄金の日蓮上人常持念のすくを蜀錦の曼荼羅經一丸の曼荼羅共日蓮上人筆なりて當寺の什物

金剛山大應寺の妙法寺の西にあり宗旨天台眞言比叡山に屬して開中を虚應

和尚の佛教を釋迦佛に奉尊して迦葉阿難を脇士とん額を大蓋とせ

して榮葉隠えれ等之後花園院の後に押出隅竹林の中にあり

叡昌山本法寺と大應寺の南にあり法興寺よりて開基日像上人之本堂に額を

光悦書に初緩小路の西にあり中頃一条堀川に西移して天正年中に今れたる人

今日菴宗且自家を本法寺との所にあり千家累代の茶人なりて上流と

號と宗良八十利休の孫なり宗因の息なり

堯天山報因寺に小川の西上立臺あり淨土よりて智因院に屬して初は淨土の

法宗は氣學に同じ明泉和尚と云西蓮社慶興上人淨土の宗と改む奉道すと

阿弥陀佛よりて安阿弥の位あり當寺の什物小虎の画あり四明陶俗に筆なり

秀吉のの財聚樂亭小ありと聲に發と故世人鳴虎と称れ

堀川に水上と二流あり具二と鴨川の板よりて上流より人家の下に流れありと

源一系辰橋下と合流を小川の二流に合流なりと今宮東院流と

多々若狭川と其の辰橋下と合流南に流れ在寺に經て上鳥羽より若狭川に

水とせりてあぐりんとて代々ぬきけり堀川のあり

辰橋と条堀川に下あり安陪暗明十二神將に橋下鎮を奉成の御の喚

星を便世人の吉山と橋ありと御の神將を人記して昔よりん

二位殿一条堀川辰橋の末の川に車とせり

二之善清の死よりの子に淨藏定小寺に

置肝膽を推し念珠を採り小の神祇を禱す遂に咒力陀羅尼に徳ふりて羅

王累小徹一父清の急難を淨藏涙を揮て父を抱き家より取れり

けく世人辰橋と云是洛陽に橋あり

替札の奥入
 未練の橋
 の名こそ
 知り又旅立
 人よこの旅
 貸付通ら
 されよと
 こそつばき

辰橋



一條辰橋

やまのり
 こころの橋

いほく

みと

帰る

さぬ

ほれの

こころ

橋

人の

和泉式部



小野小町 雙紙洗の水を戻橋の良諸侯に浦に居るあり清和水もつ一俵五
 小町塔あり暗明水 此所あり安陪暗明密法に於ては神の居る處なり 下り松
此所あり二条の下り松に足り

安陪暗明社と二条の西蔭屋町暗明町あり多々所ハ暗明が靈神之
 古とけ地暗明の居籠ありとそ

水火天神ハ堀川に天神のつ子ありなる所水火に靈神なりと云
 瑞光院ハ安居院れ小ありむつハ淡路遠江の身宅之鎮守に神依法孫

稻荷と称し播磨赤穂城主淡路内通頭長矩具外家臣の塔一基あり
 大石内翁の良雄と始 當院に什物小内藏女に画像并世の詩歌書翰等あり

惠光山本隆寺と又辻の小あり法海宗ありて開基ハ日直上人之題目の
 石塔を日像上人に奉ん 此寺ハ四條の西あり中頃西陣あり

櫻葉宮と出水通千奉れありありなる所天照を祀むつ右近馬場に
 天降りの人日降の神明と称ん

水火天神
 瑞光院



石像寺



家隆山石像寺と千本通五辻の北より浄土宗より本尊阿彌陀佛と

菅公に依り地蔵堂も弘法大師の作りゆき像は石地蔵あり

ありて地蔵はちあり石像寺前上総守藤原朝臣家隆卿の塔あり

北山歡喜寺へ上之賣の西あり真言宗より本尊歡喜天と弘法

大師の作りり當寺を後醍醐帝の勅願所より因是弘法大師と

石神社を歡喜寺の西あり所長六人となり此處石あり土藏の中安

そ車及舊も更囚重れ塔因より

聚樂亭は旧地と一条の南二条の北より東に宮を限り西に朱雀通

城堀より大岡寺と公天正十二年小堀郭と築は壯麗ありと威と重なる

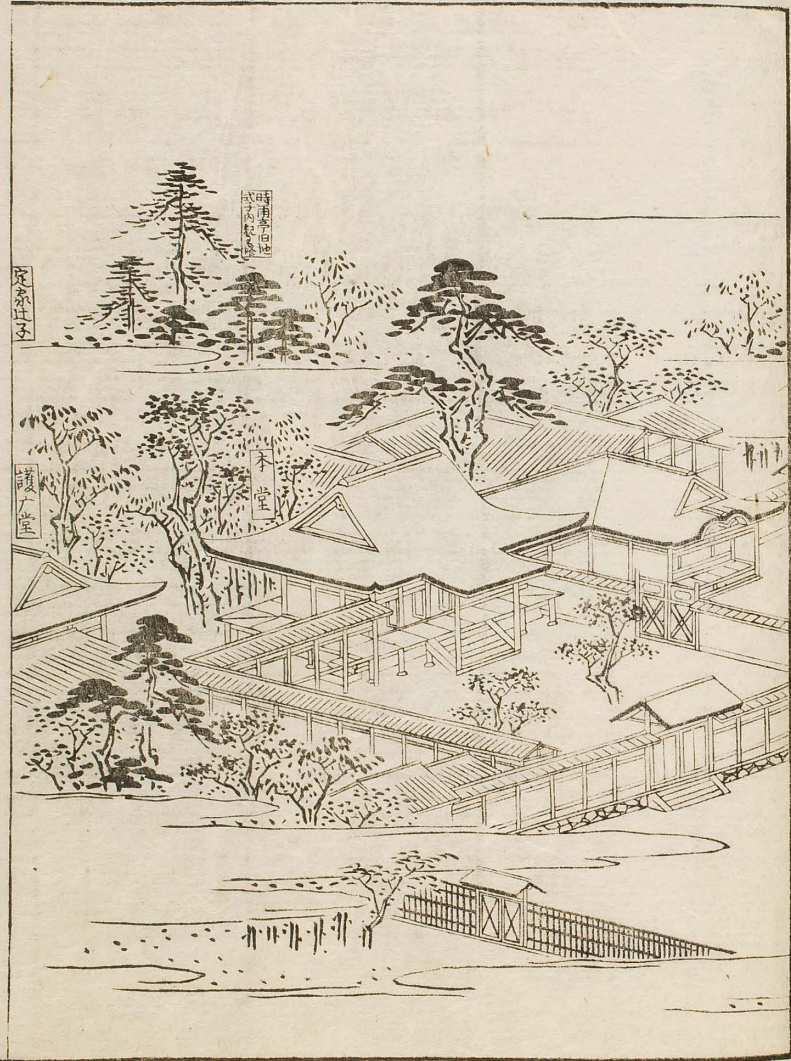
本わくと殿内七寶を鑿る本寺名なあり秦の阿房宮前漢未央宮

みとやとと實園ありは十六年四月行幸ありておされ清會社あり

其後園白秀次とつた後ひより文禄四年の滅亡より樓閣とつた寺院

みつりて今聚樂の名れ遺り町れ惣なりわ

聚樂銀・渡り町敷
九百二十町あり



般舟院

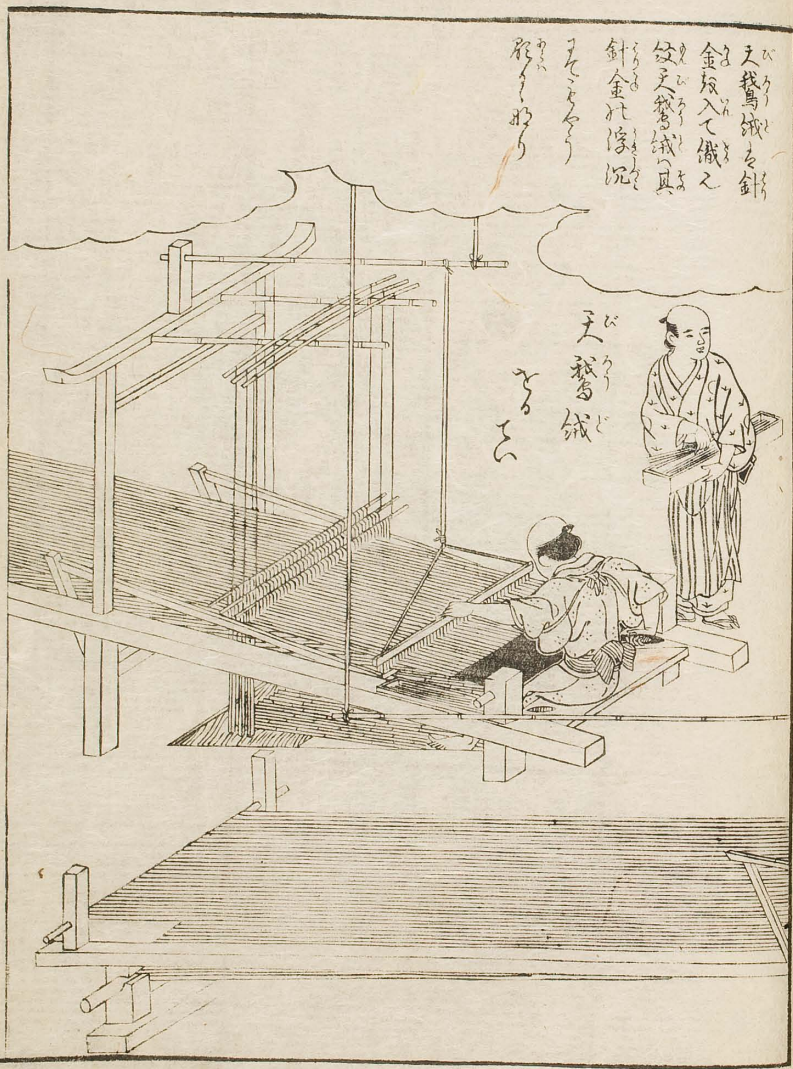


西陣田小波(さいじん)の呉服織(ごふくおり)は、唐織(からおり)の
 際限(さいげん)なく金網(かねあみ)錦(にしん)唐織(からおり)の
 入(いれ)るに、新(あらた)なる織(おり)へて
 石(いし)耐(た)具(ぐ)地(ぢ)紋(もん)紙(し)不(ふ)圖(ず)圖(ず)
 堅(かた)様(やう)小(こ)糸(いと)れ、助(すけ)成(なり)花(はな)
 具(ぐ)糸(いと)教(しよ)何(なに)不(ふ)空(くう)お
 具(ぐ)織(おり)物(もの)の機(はた)組(ぐみ)を白(しろ)
 糸(いと)糸(いと)十分(じふぶん)一(いち)乃(の)
 雖(なほ)股(また)と梅(うめ)の糸(いと)を
 求(もと)めて、糸(いと)本(もと)糸(いと)糸(いと)糸(いと)
 配(は)けて、糸(いと)の地(ぢ)紋(もん)
 あり、糸(いと)織(おり)糸(いと)糸(いと)糸(いと)
 糸(いと)糸(いと)糸(いと)糸(いと)糸(いと)
 糸(いと)糸(いと)糸(いと)糸(いと)糸(いと)



錦
 織

又(また)鶯(うす)織(おり)を針(はり)
 金(かね)板(いた)入(いれ)て織(おり)之(これ)
 紋(もん)天(あま)鷲(じゆ)織(おり)具(ぐ)
 針(はり)金(かね)板(いた)浮(う)け
 糸(いと)糸(いと)糸(いと)
 糸(いと)糸(いと)糸(いと)



天
 鷲
 織

般舟三昧院ハツシヤクサンマイインハ今出川通系屋敷の西小あり宗上ソウジョウ律リツ兼ケン學ガクありて

禁裏内道場キンリノチノミチノバと稱ナリ久用山キウヨウサン之ノ惠篤上人ケイタクジョウジン善空ゼンクウと號ナリ一字イツジツ敬川ケイケン護法園ゴホフエン慈

和尚シヤウシヤウといふ本尊ホンソン阿弥陀佛アミタハツレ坐像ザゾウありて慈覺ジガク大師ダイシれレ化ケり帝王テイオウ歷代レキダイ乃

神牌シノハイ寂安シヤクアン並ナリ後土御門院ゴトウミカドノイン御塔ミタハ本堂ホンドウの西ニあり式シキ子内親王シノチノミカドの塚

當寺トウジ小あり定家テイカ舊キウ墳フンといふわづハ推定ツイテイ家廟カボウの別荘ベツショウあり門前カドノマエの辻ツジハ定家テイカの辻ツジ

惠照山淨福寺ケイショウサンジヤウフクジハ一条イツジョウれ西小あり淨土宗ジヤウツツノウありて智恩院チインインニ属ツケル本尊ホンソン阿弥陀佛アミタハツレ

ハ弘法コウホウ大師ダイシれレ化ケり開基カイキと弘蓮社コウレンシャ深譽シンキョ上人ジョウジン本堂ホンドウの額ガクニ淨福寺ジヤウフクジ

と書カキて後奈良院ゴナラノインの宸筆シツヒツあり

安穩山アンオンサン大超寺ダイシュウジハ淨福寺ジヤウフクジれ西小あり右ミドリ日宗ニチソウありて本尊ホンソン阿弥陀佛アミタハツレハ惠心ケイシン僧都ソウト

伊勢イセを神宮カミミヤ小一七日コイチニシチニチ系ケイ終ハヤシりたりハ阿弥陀アミタハツレの三尊サンソン堂ドウ中ナカに現アワれルハ人ヒト列レツ其

尊形ソンガタと換カへて三尊サンソン之辨シバり具ク阿化アケ人ヒト来キて共トモ小コ化ケ故コト世人セカイジン神明シノミの所トコロ化ケり

西陣サイジンといふ明徳メイトク頼タシ山サン名ナ細川ホシガハハ兩執權リウシツケン洛中ラクチュウニ在アりて教キョウ育イク合ガフ報ホウりハ阿彌アミタ河カハの西

一条イツジョウより北キタ也ヤと西陣サイジンといふ堀ウツリ川カハありて東陣トウジンといふとハ奈八ナハチ應オウ仁ニ認ニ

淨福寺
大超寺



浄華院



廬山寺



蓮華山阿弥陀寺の京極通鞍馬に南あり淨土宗ありて百方遍に属し
本尊の阿弥陀佛の弘法大師の依之開基と清上人方丈の織田信長公
同信忠公の影像故安住同兩公の墳墓其外明智秀吉殿の御廟あり
みわく討死の長教筆の墓あり 清上人信長公の墓あり

華宮ふ十念寺阿弥陀寺の南あり右に宗ありて本尊阿弥陀佛弘法
大師の依之開基真阿上人 永享十二年七月二日寂於蓮命よりて高相川
水葬に年六十六後村上帝の裔孫あり

廣布山本満寺ふ十念寺の南あり法華宗ありて開基日秀上人の祖師堂

日蓮上人の像初丹波國黒田村あり所の人熱病を發して死せるもの多し

あれ則に像の崇めりて檀入して山中に捨りてまうの皇霜累りて初との
あつ中へ續經の筆あり村成り後わやふふ入る窺ふは尊像の

得たり則同所生福まつ安住其後宇津宮心覺といふものれは棄の
たて都小登り市中に傳ぬる寺の日重上人されとて高祖の像ありと述ふ
買たりく當寺に安住せり 新徳と云ふ靈驗ありとありて當寺の「徒孝に奉るは
一徳ありたて」大師の像といふ新著の傳ありとあり

淨華院の京極通今出川の南あり淨土宗の且一寺あり本堂ありて法華經上人

の像と安住阿弥陀堂の本尊惠公の依之 當院むらゝ上人よりて多寶大師の
開基とて初の地と傳へ通今の上長

肉道場と稱せり故に號あり 中興と法然上人より第五世阿上人の俗姓は

源成りて武田安藝守時繼多き舊園城寺の住侶淨土宗房證賢と

號し弘安十手發心して離あり洛陽花園院に居れ其後當院と開基に

身代不動尊 當院に安住のり三井寺の智法師重福なりけり安住陪
明諸村に祈りて日とて命終の期來たり徒衆の中身代に立

たて備ありと云ふ時より三十一人の内聖空一人僧出くは師の身代ふありて

論放斷をたてし具に聖空常持念一々不動尊堂中示現して興あり

廬山天台講寺の淨土院に南あり宗首 天台律
法持淨土 兼學あり開基の惠遠法師あり

て與願金剛院と號し中興の住上人の日化人來てり唐に惠遠法師あり

廬山の二の坂あり住人高與故廬山寺と改む存るは元大師自化の像南に

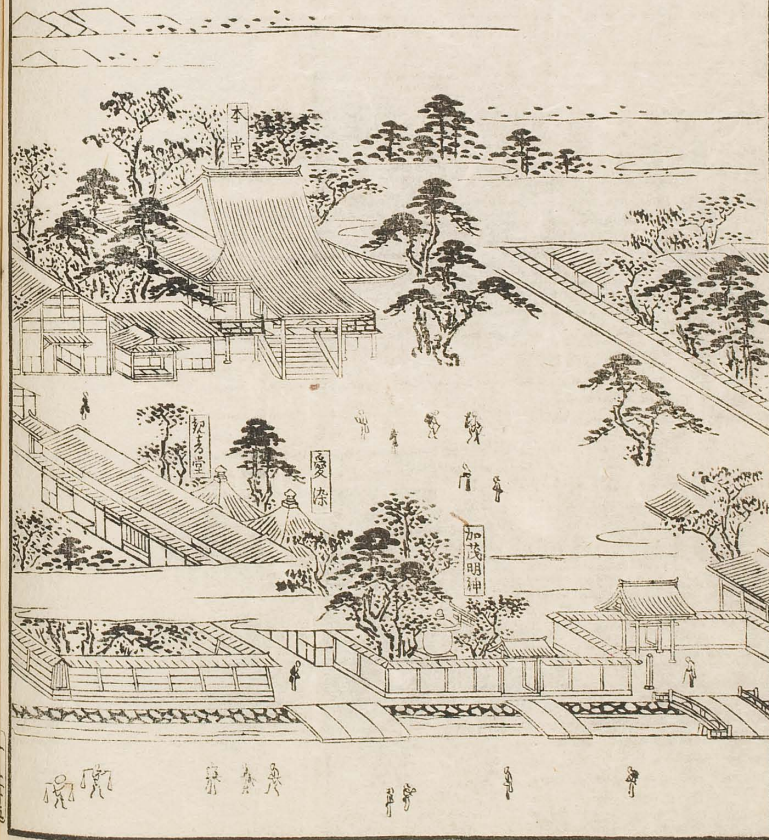
壇上五の系師佛と安住 聖徳太子の御尊
小原の法師と稱 此壇上の聖觀音像あり 傳教大師の御尊
觀東邊にありと傳
當田寺

れ什物は法然上人自筆の選擇集あり又親鸞聖人自筆の四の文あり 聖徳太子の御尊
傳教大師の御尊
觀東邊にありと傳
當田寺

下御壺社



革堂



下津霊社しづのたま 系極通春日しづのたま 今九巻の南ありある社八所此下津霊にて上津霊

同神あり八所の社名の上よありの御ありしづのたま 觀音堂くわんおんどう 社内あり倍陽かいやう 觀音堂くわんおんどう 巡りの第六あり

行願寺ぎょうがんじ 下津霊の南隣しづのたま 一名いっせう 靴堂かぜどう 天台ありて本尊土面千手ちせんじゆ 觀音を長

八人の立像行圓上人の位しづのたま 西國東十九番に巡禮所又しづのたま 加茂明神の石塔いしとう 五輪の

て高き余あり塔ありしづのたま 當寺の開基行圓上人しづのたま 原鎮西の人あり寛弘

二年小皇城を遊しづのたま 頭あたま 寶冠ほうくわん といふ身みみ 其その 華服わふく 披ひ 着き せり人

都みやこ 人ひと 革くわ 上かみ 人ひと と呼よ 行圓ぎょうけん はは 千手ちせん 大悲だいひ 陀羅だらか 尼に 持もち 良材りやうざい 求もと 免めん

觀音の像くわんおんのうさぎ 亦また 人ひと 革くわ 披ひ 覆おほ へりあり夜よ の爰ゆゑ にま入いり 沙門しあもん 来き り靈みやう 衣い と返かへ

といひて覺さあ ぬ翌朝あしたあさ 果はた して一僧いつそう 各各自 苦くるしみ 多おほ かり鴨鴨 社しゃ 傍たもと 小こ 苦くるしみ 茶ぢや 煎せん 之こ

觀樹くわんじゆ あり六む 齊せい 日にち 毎まい 千手ちせん 礼らい 拜はい 呪まじな 頌じゆ する聲こゑ 聞き ぬむ鴨鴨 社しゃ 傍たもと 小こ 苦くるしみ 茶ぢや 煎せん 之こ

其その 樹じゆ 下した 又また 降くだ りありして則すなは ち行圓ぎょうけん 未ま 没ぼつ 爲な るら 求もと 免めん 則すなは ち林官りんくわん にえけ

菩薩ぼつさつ の像うさぎ 亦また 各各自 行願寺ぎょうがんじ 故ゆゑ 堂どう 安やす 室むろ 及び及び 其その 當寺たうじ の本尊ほんそん 也

又行圓ぎょうけん 華服わふく 披ひ 覆おほ 常じょう 着き たるゆゆ 人ひと 其その 革くわ 披ひ 覆おほ 堂どう 及及び 其その 後のち 行圓ぎょうけん の

才さい 子し 仁にん 弘こう 法師ほふし は餘あま 材ざい 依い 傍たもと 又また 八尺はちせき の像うさぎ 依い 傍たもと 西山にしやん 良峯りやうほう 寺じ 於お 此こゝ

當寺たうじ 初はつめ の二條にじょう 通とほ 新町しんまち の西にし あり故ゆゑ 一いつ 條じょう 華堂わだう といふ

清せい 荒あらい 社しゃ は系極けいごく の東ひがし 荒神あらいかみ といふあり所ところ 八臂はつへひ 荒神あらいかみ あり初はつめ を按おし 別べつ

勝かつ 尾お 清せい 小鎮せうぢん 坐ざ 後陽こうやう 儀ぎ 院いん 勅てふ して文ぶん 録りよく 年中ねんぢゆう 五條ごじょう 坊ぼう 門もん 油あぶら 小こ 沼ぬま の

西にし 小こ あり其その 後のち 北きた 關せき 小せう 近ちか かりんたた といはれ地ち 移うつ かり古ふる は

本ほん 誓せき 言ごん 寺じ と河原町かわらまち 二條にじょう の小せう あり宗そう 直ぢく 親おやぢ 靈みやう 聖せい 人の弘こう 法ほふ ありて高田たかた 派は の

本尊ほんそん 阿弥あみ 陀佛だぶつ と惠めぐみ 公こう の位ゐ ありて初はつめ 宇治うぢ 惠めぐみ 心こころ 院いん あり本堂ほんだう 也

秀ひでゆり 吉よし 吉よし 北きた の政まつりごと 所ところ 化粧けしやう 殿んでん 堂だう 内うち の画ゑ の狩かり 弄ろう 永えい 徳とく が事こと あり

妙たう 塔たう 山さん 妙たう 満まん 寺じ と系極けいごく 通とほ 二系にけい の南みなみ ありは毎年まいねん ありて開基かいぎ 日にち 什じ と

あり永徳えいとく 二年五月にねんごごげつ 建立たうじやう ありて之これ の地ち へ倭やまと 小せう 治ち 堀ほり 川の西にし あり今いま 妙たう 成じやう 寺じ

道だう 成じやう 寺じ 鐘かね 當たう 寺じ 小せう あり初はつめ 日にち 高たか 道だう 成じやう 寺じ の縁えん あり銘なづか あり其その 亂らん ありて今いま 道だう 成じやう 寺じ

附つ くと然しかん といふ鐘かね ありて其その 響ひび をく至いた らば故ゆゑ は淺あさ 伏ふし 鐘かね 忍にん じて碎くだ んとこころなり也

内うち には藏くら 小せう 龍りゆう 頭かぶつ の下した あり中川なかつがは の井い 堂だう あり池いけ あり

あり中川なかつがは の井い 堂だう あり池いけ あり

妙満寺



本能寺ハ系極通押小治の南あり法華宗ニ勝方派あり古き妙満寺の

日像上人より四世日齊上人 開基日隆上人初の地を三角の南油小治の東に

勝方の一派に興隆あり 今寺住持町 中興権大僧都日興上人筑波集といふ和語の書版其有と

あり 方丈の前の門ハ聚樂城より移る織田信長公塔 本堂の南あり天正十年六月二日

愛宕山権現の古社あり 爲は自叙を委ハ 題目曼陀羅 宗祖日蓮上人の宗へ長具を織田の地より要州の地故

信長記よりあり ありあれぬ世々本住持寺切といふ

聞法山頂妙寺ハ二條橋東の小之所あり右日宗一致派ありて開基日祝上人

あり権大僧都法印ありて姓ハ千葉氏下総國千葉郡の令永正十年四月

十二日寂辰未八十七當寺樓門の二天を持國天西の多門天ありて運

安阿弥の兩化之靈驗新ありて常ニ諸人後を 樓門の前ハ二天の輝照あり

細川治部少輔源勝益寺地版寄附して頂妙寺と号を初の地を新町通

鷹司 町あり 今此下長者 小あり具後中御門 今此下長者 山高倉所所旧地より

天正の末より又此地より



寺能本





生洲

生洲といふ高津川筋三條の
 小川あり川を橋敷を向らひり
 とのほり多々梅屋を造りて
 向酒香を商人王祥の巻感
 舞も張輪千世とて人難も勿ら
 川辺に生洲とて都鄙は寛容な
 さんさうささう婦人のみ集
 三弦の音曲をたはむりより
 い所の夜とさんといはれんや





頂妙寺



三條橋と東園より平安城小至り喉口より貴賤の行人常々多くて皇朝
れ繁花のけ橋上よりより欄干の紫銅の擬寶珠十八本ありて悉
銘刻其銘小曰 洛陽三條之橋至後代化度往還人般石之礎入地
五尋切石之柱六十二本蓋於日域石柱盪觴乎天正十八年庚寅正月
日豊臣初之御代奉増田右衛門尉長盛造之

檀王法輪寺と三條橋東爪あり澤土宗ありて本尊阿彌陀佛の惠心此之

古ハ悟直寺と號して良忠上人の弟子道法法師建立之應仁の乱後凡廢ふ

乃ハ慶長年中代家中上人再建ありて梅檀王院と号し 今略して檀王と号す
又條橋東の隈居一袋中庵 主夜神祠と開基代家中上人の勅之縁記小曰
と稱し今尼僧持之

慶長八年三月十八日代家中上人別行ふて念仏のふ包袴とて朱衣小

青袍を着て光明の中に於れ上告て曰われ華嚴經小説多し 娑珊

娑演底主夜神之專修念佛の行者公擁護とて之と則に般若授の事あり

應驗新しと常々詣人多し 慶長八年當寺實庵ありて近年今此堂小鎮坐れ
と稱し今尼僧持之 願を有細川職仁親王の幸あり

鎮守ハ加茂大神宮なり

當寺建つる公前の勅造なりハ隆平の御
鎮守ハ加茂大神宮なり

龍王祠ハ鴨川の東に岸ハ大なる池あり

龍王祠ハ鴨川の東に岸ハ大なる池あり

由未詳三株松

三所

瑞泉寺と三條小橋の南あり澤土宗ありて本尊阿彌陀佛と聖徳太子

此能より開基ハ三空柱叔和尚本願ハ園白秀次公の母堂瑞龍院あり

秀次公退陣此為建立一のハ 則秀次公ハ 文禄年中に秀次公

右園秀吉公と對して逆ん此企あり 故に紀別高村ふ入つて自殺を

首と取つて三條河原に集ふて二十余人の妾婦并に推子共此所より

て斬罪して同穴に埋む其後塚を筑て上ふ截石あり 銘小曰秀次忠逆

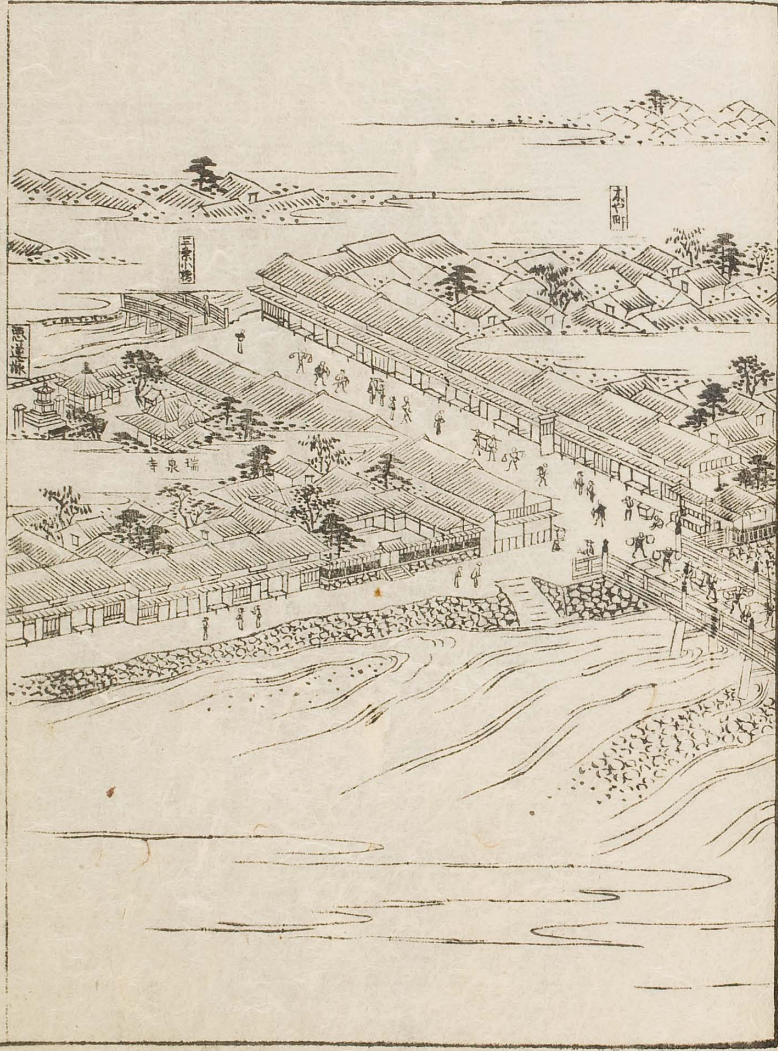
據文禄四年七月十五日と書す

先斗町ハ鴨川の西岸三條の南あり川邊ハ水樓の如く軒端返つて

坐して洛東ハ風系欣賞一酣歌の英客多く群は

花結乃底より云ゆく流れの匂

鬼貫



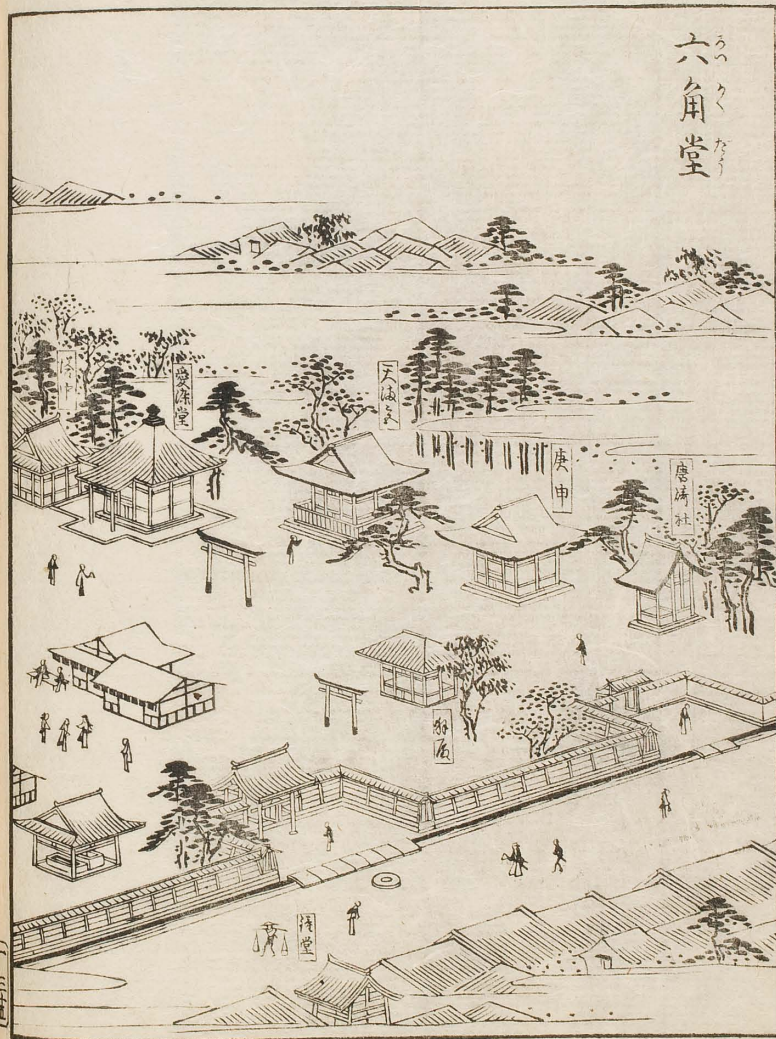
所^{こゝ}所^{ところ}八幡社^{やっぴんしゃ}八幡町^{やっぴんまち}一名^{いちめい}池^{いけ}通^{とほ}
 高^{たか}会^{かい}の西^{にし}あり足^{あし}利^り華^わ氏^し公^{こう}
 康^{やす}永^{なが}年中^{なかつね}に初^{はつ}法^{ぽう}寺^じり號^{ごう}と
 風^{ふう}凰^{おう}寺^じ持^ぢ持^ぢ寺^じの^の名^なを
 國^{くに}師^しも暫^{しばしば}あはれに^に信^{しん}じしと
 池^{いけ}は^はあつ^つま^まの^のい^いし^しの^の昔^{むかし}先^{まへ}
 園^{えん}殿^{でん}下^{した}井^い草^{そう}ありて^て真^ま夜^やに
 沈^{しづ}み^みり今^{いま}兩^{りゆう}登^{とう}町^{まち}池^{いけ}の^の小^こ
 人^{ひと}の^の重^{おも}小^こ池^{いけ}の^の旧^{ふる}名^なす
 遺^い蹟^{せき}と^と諸^{しよ}橋^{はし}の^の池^{いけ}通^{とほ}
 爲^なる^る西^{にし}の^の名^な橋^{はし}の^の池^{いけ}
 け^け水^{みづ}草^{くさ}小^この^のい^いし^し
 橋^{はし}の^の旧^{ふる}名^なあり



夕^{ゆふ}立^たや
 法^{ぽう}善^{ぜん}
 の^のい^いし^し
 阿^あ弥^や陀^だ
 堂^{だう}

具角

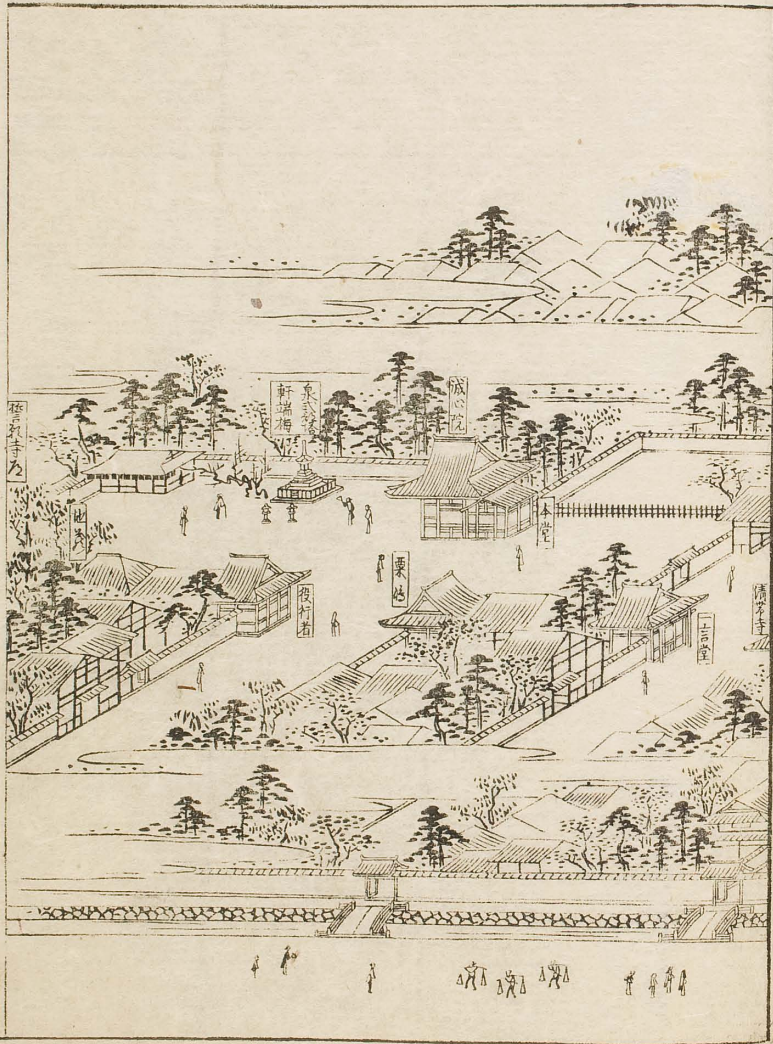




六角堂頂法寺六角通鳥丸通のしんがみろ天合宗りて同基を
聖徳太子あり奉尊如意輪記言の金像少長一丈八歩之西國十八番巡
三十一并此尊像をむろ冷路山岩屋浦に夜に光あり燠くあれどあ
一の細とゆるとみ朱れ唐櫃依得たり具棧の上正堂如意輪乃
像一尊漢上日本皇之玉衣くせりよめて唐裏小敵りみ太子早く
あして皇のを祇前生七世の持尊より尊崇常小隨身のよ
時撰別四天王寺依造んとて材本依所に求らる具頃け所と山祇折田
郷土車早くふ太子い急依佛個一あり清清水小深のんをれ像と
柳樹ふけ急浴とて像依るふふと重くを離るまふ具疾乃
差小奉尊告て曰我をこのふ小持せりて未七世今又此地に因縁あり預
ありたりと永衆生取利益せんと言ふれり東方よりまろの老嫗来て
曰は傍み大木の板あり毎朝紫雲を覆り是を靈材なりといふ太子是
とんめし知きりめ依本(株)と文に六角通法堂と宮の具後二百八十餘

歳を経て桓武天皇都依ありは是を少府官使條路と極むる六角通小
後の中其當まを皆足取懸りりて建立精舎依所と接せんといふ
とゆはりたり依黒雲りては堂自五丈斗小の方小退り故ふ事ゆか
小路坂通して都とつふなり一説は高麗國光明寺より一尊像をり依坂の
地坊に立祀當切住職の中事慶法師を依依を安んずるに本堂ありて合會ありて是也
感のいふたの秘記を要するに本寺より具依依つて中興又當ぬらふりり具依依の依人群とあや
延暦七年七月十二日星社を仰して都鄙の門人方大なるり立祀の云とありは是の依人群とあや
錦天社系極錦小落東約當ありなり所天満天神と鳥居れ額天満宮と
書きて青蓮院尊英法親王に奉て拜殿の額寶鏡寺宮理秀尼公の筆を
字書し時宗ふりて紫苔山歡喜光寺河原院六條道場と號し同基六遍上人の
甥聖戒上人と云ふ二十二年二月十日卒寂に當寺の旧地は東六條本願寺の境内に在りて
寺にあり千鳥池當寺庫裏の傍にあり壇電社十名依の中邊にあり所
柞當社寺内の鎮守ありて古い大良融公依ありて中邊にあり
天満宮勸請しなり





圓福寺
鱗藥師
泉式部
軒端梅





誓願寺

大本山圓福寺の京極通四條坊門今の齋法師 東にあり浄土宗源流

義の一本寺いかに給法師三條坊門 本尊阿彌陀佛ハ法然上人の作り

銷茶師ハ永福寺と号して永福寺の境内小あり田池ハ三條室町 本尊守師

佛ハ石像ありて長二尺傳教大師作舊比叡山の北谷より又銷茶師と號するハ

師と稱せし後世誤つて銷茶師といひ風俗せうつうへの堂の樂の銘及三條室町

西光寺ハ銷茶師の小隣ハ虎茶師ハ弘法の作即金堂

長金寺ハ誠心院の西向ハ一言堂ハ本尊十一面觀音ハ弘法の作後坊の銘

清帶寺ハ西光寺の西向ハあり本尊服帯地藏ハ土佛ありて行基作

信あり懐妊の婦人安産 誠心院ハ西光寺の小隣ハ浴ハ和泉式部といふ古小川一糸の中あり佛堂圓白道長公の

本尊ハ阿彌陀佛脇壇ハ圓白道長公作經堂安堂及和泉式部塔軒端梅の

彩端の梅は傳ハ龍潜師紫藤軒言水の墓あり 風は果る有るり海乃音

言水



和泉式部ハ
瓶あり推致
女ありては
あそびて世
鳴又美顔
曼曼前対の人
されと暮入
四十米の久
より尾小あり
誠心院乃
小清堂あり
藝して
専末末の資根と
一遍上人誓書ありて所れ
とらちありて其靈魂
現れ上人は同言せし識
曲の益とも宣るらん

誓願寺の系極二条あり澤土宗よりて源州流衣の一本寺より奉願を
 天智天皇開基の惠隱僧都より初和列平城あり桓武天皇遷都の後上
 深信僧都も暫く住し十餘世の後藏俊
 僧正法然上人の法流を傳へ澤土宗とす奉尊阿弥陀佛の長八尺の坐像
 ありて佛工賢阿子ある國兩人の伝あり又春日大明神を祀りて杖
 助あり故春日の神也佛面土木字の文字ありあれ天智帝の宸筆あり
 腰刀五條六條あり希代の靈物にて寺燈台とす
 額大尊寺空性法親王の筆當寺再興又施主大相國小澤方
 佐々木系極が為二世安樂也とす六字經一遍
 上の筆之堂内の壇上あり天智帝の宸筆慧隱和尚の親と安良之重
 塔と云え和八尺の草創よりて奉尊の合樂師あり開堂あり法然
 上人の像あり釋迦堂あり寶冠釋迦佛と安良之鎮守の春日明神五輪
 石塔秀吉公の愛妾松丸殿の墓法名清方院月是盛久禪定尼と銘
 當寺再興の施主ゆ檀那塔と銘
 辨慶石の方丈の庭假山のよあり此山ハ二条系極の西
 飛臺ありありしとす柏石と小方丈の西
 千洗鉢本あり羽二重井の方丈あり當寺に什物と烟除佛舍利を
 弘法大師より傳來と云法然上人の牧記法衣美嘆と休和尚の字あり

表具の中縁ハ紫琳の牡丹りくんと云うて古作也明徹真上亦曰
 一枚を多略とす
 小縁ハ紫琳の愛花と云うて誓願寺切と安良房と云ふ

傳聞法然活如來

尼入道同愚癡輩

南无阿弥陀佛

け外達ハ虚堂つゝぬとの唯法然の一大事と

存を我今より日より澤土宗の源中院賢く

應仁二年二月五日

佛所さぬ

當寺の境内ハ紅梅數株あり如月の夜ハ都下れ人々ふまり

未開紅の艶々色賞して美観とす

立あゝぬ本とつゝしとる梅花

塔中竹林院ハ小堀遠別三在遠別の
 八窓といふの庵あり

絶倫ハ長仙院の庭佳境と世々名を

舎羅

柳水の西園陰三茶は雨小あり
 いふ（公）所に風風香柳
 りは海道場ありい茶茶名た
 又いやくりに思ひいあり捨茶
 抄小曰香佐の宅窓所さうさ
 又朝成の悪堂さうさい明徳
 の兵太小回録でさうり



空也堂録くたの茶全と
 賣て茶くたむり村上
 五のれ清字茶種ふとわ
 了て死さとの教をた
 空也上人の伝説を記す
 此像を依り茶全て茶湯
 坂わねるに供し具茶湯伝

法（人）ふり（は）より
 瘡たらしら半魚
 して茶湯をさり
 帝あり茶湯感
 あり茶湯例
 毎年之三日を
 空也堂の茶湯
 みて茶湯とて
 あり茶湯とて
 年中茶湯をさる
 くとし茶湯の初茶湯た
 より今に王服をさる



紫雲山極樂院光勝寺の四條坊門坂川の東敲町あり空也堂と號す

極樂院の筆跡あり 空也上人の像あり

自化の像を尊く 後脇士に地藏毘沙門天之北の脇壇に坐像の河津院に

法師の像を安んず 柳空上人の延喜帝第二の皇子ありが塵外れ無為

小蕭然として居る 鹿鹿夜夜を困坐と慰むる上人曰く憐れ具聲と

愛のよき源一 日鹿をくるとは 平定盛とくるとの遊獵して鹿を持たり

頭小狹て常小推あり 痛者定盛と上人の法徳 歸入所あり 教化の便せ

と風して寒中より夜五三時市中を徘徊 條上往生の因と稱す

上人定盛法師の示しめり

空也上人出誕の延喜三年之 不詳 入寂(天) 天禄三年九月十日 奥別金屋

卿八葉寺を往生後遂に年七十也 京師より戻東鏡か人十月十五日 空也上人

衣替鯉の 妙法醍醐味 飯食日けゆは 瘦衰て 鹿角杖 由來寺

繪詞傳 空也上人の傳記あり 青蓮院 法親王の 御加衣沙 東福門院の

神泉花の御池通大宮に西あり 直言空也上人の 善女龍王社の池の中

朝日あり 二重塔の久日如本を尊く 法成社にあり 池もみ

乾臨園を嘗て近傍に將淑別當職 庭中小の巨勢金圓石を置く 風



光祿卿守敏諸龍效咒一甕中入私法大師天竺無熱比の善女龍
神と清一天下早魁然愁いと持て獻感と崇の小野小町もれあて祿して雲降
一鷲の眞骨とけけて羽と仕躰れは官あれ安くと捕む帝中感れあまより又
位は爵と賜りてをい所へ又白河院清遊の附給つらそて獻感あつた鶴比
池中入て金覆輪のた刀と管少せ上りたり星より銘給給丸は崇徳は少僧
六条判官為義は此清劔と物さる祇園會もあつた始は弘仁三年より後祇
帝は苑中ふ於ては花宴あり星夜宴の始は本朝文粹は源順の白神泉苑を禁
苑の具より紅林地度うて楚後夜會中小舌緑比水高うて呉江波眼
下は縮むくちり星霜漸累り遂は建保十園より荒廢なるよ承久の乱後い
武別の禪門築地衣高うて門を堅て修造ある具は後であれて旧は地より
とえれの衣は紫は僧寛雅とて官小申て再興一真言の靈場とるに北野
右近馬場は神泉苑等へ終るうとつとも星大内裏の遺りる

武庫川女子大学附属図書館

04464822